



中部電力

地域環境に配慮した緑化手法

遺伝子情報に配慮し、 低コストの在来種緑化 を目指します。



背景・目的

- 平成27年10月「自然公園における法面緑化指針」が策定され、自然公園内では、国内産の在来種で緑化すること、遺伝子レベルで地域性に配慮することが求められるようになりました。
- 国内産在来種の種子はほとんど流通していないため、緑化工事ごとに在来種の種類や種子の調達範囲を明確にする必要があります。
- 緑化工事の期間短縮や費用低減のため、予め在来種を選定し、遺伝子情報が同様の地域から安価に種子を調達する研究に取り組んでいます。



遺伝子解析のイメージ

特長

- 自然公園が多い山間地域や海浜地域に自生している複数の在来種を選定しています。
- 遺伝子解析によって、施工地と同様の遺伝子情報を持つ地域から種子を調達できるようにします。

用途

- 生物多様性に配慮した緑化材料の選定(上記緑化指針への適切な対応)
- 緑化工事における経済性(種子調達の低コスト化)と地域の生態系保全(遺伝子レベルの配慮)の両立

遺伝子情報を解析している15種の国内産在来種



ヤマアワ



オヒシバ



カゼクサ



チガヤ



ササガヤ



アシボソ



トダシバ



チカラシバ



メシバ



ネコハギ



コウボウムギ



コウボウシバ



ネコノシタ



ハマヒルガオ



ハマエンドウ

山間地域および平地に多い在来種

海岸地域の在来種

開発者の ひとこと

法面保護や景観維持など施工地で求められる緑地の機能を維持でき、遺伝的にもその地域に合う在来種を使って、日本の景色にふさわしい緑化工事が可能になるよう研究を進めています。